

古市古墳群 探鳥会

2013年 2月 17日 (日)

9:00 ~ 15:00

76年前の2月18日に中西悟堂先生が藤井寺の南へ向い今日のコースと似た所を探鳥されたことは大変興味深くわくわくし乍ら出発した。悟堂先生は一行3名(榎本佳樹先生と平岩氏)私達は何と50数名。即ち67の目と100以上の目では探鳥できる種類は最初から勝負ある様に先生組は2種こちらは57種という結果になった。鳥に振り廻された素晴らしい1日だった。

悟堂先生は私の母親の里である六甲の家に度々来られ祖父や伯父と六甲山や武庫川に探鳥に行かれた。私はその影響で鳥見を始め中学2年頃の母親がよく語って呉れた。お名前だけはよく伺い母親も沢山見られてお私はお目には付いた訳ではない。

自然は当時の方が沢山あったと思う。恐らく榎木杯の丘陵地帯に古墳が点在しお堀と其中的照陽榎杯であろう。今は人間が進出して樹木も大きくなり鳥にとり特に冬鳥にとり佳み心地のよい環境になり、鳥の種類と個体数は昔より多いのでは無いと思う。林の深さや植栽された樹木はタカや小鳥を守ってくれるし相食という餌も作ってくれる、又人間が給餌もしてくれる。

50数名を電話番号末尾の数字により偶数組と奇数組2班に分かれた。私は偶数組 後行 上村リーダー班になった。

藤井寺駅の直ぐ南にある萃圃神社ではクスノキの樹上から昆虫類をフライングキャッチするメシロが何羽も見られた。虫が出る時はもう春で可ぬ。シメは地面で餌を漁り、時折池に水と呑み近づいてくれた。鳥の水の呑み方、上嘴の使い方を上村リーダーが説明して下さった。

南へ下り仲哀天皇陵古墳ではカモミが5羽も見られた。カモミ、サギ類、セキレイ類 更に確定出来なかったがヤマシギらしき個体が手前の水端からお堀の水面を横断し対岸のアラカシの杯に潜った。

出陣鳥の多いので一行の足は進まず行動予定を作っておられるリーダーはヤモモキ
さんだった。ヤモと住宅地をスピードアップして南へ歩き出した。キレンシクが数羽
混っていたヒレンシクの大量団が電線に連なり飲毒の声、声に驚いた鳥は直ぐ
飛び去り列の後のオは見られなかった。

仁賢天皇陵古墳と隣接する上田池にはマガモとカルガモの交雑体の
一団がおり各々少しづつ異なり、そのオは驚きだった。

峰の家古墳のある峰家公園で先覚組に追いつき昼食。その内もお濠に
現れるカイツブリ、ヨシガモ、ヒレンシク、モズ、シロウ、ツグミ、キンバト等昼食
をゆくり取る肉も無かった。

その後直ぐ下の長池へ出てキレンシク、マガモ、ヒレンシク等を見たりと
クロウアシサシが1羽池の上を飛んで通り、この鳥がヒレンシクを
見守るらしい。今冬は各地の内陸の地に多かった、琵琶湖では50羽の
集団がいたとも聞いた。長池を廻り込んで裏側に居た外環状170号を渡り
陸橋に上ると平岡では見られなかった。アヒル、バン、アヒル、コササギが見られた。

外環状が軽里3丁目に入ると古民家の並ぶこまねの小道に入る所で
上河原リーダーが竹内街道の始り点と説明があった。小道を進むと右手に
日本武尊白鳥陵のお濠にはヨシガモの集団とマガモの集団、ヨシガモの集団は
冬に来れば何時もここにいてくれる。ヨシガモの一部は土手に上がり芝生の
新芽を食っていた。ヒレンシクはよく土手に上がるが、ヨシガモでは初めて見た。

栄町の信号から170号線を歩くと42とするとマガモの大集団がアキニレの周辺を30~40羽
の群で飛んで通り、この樹に止まりアキニレの穂を食べる。

安閑天皇陵古墳の北側の小道に来ると直ぐ前のアキニレはヒレンシクが
10数羽、全員ここにヤモとレンシクをゆくり見ることが出来た。

大乗川に沿って下り、またカサミ、石川の川原で先覚組と合流、ヒレンシクとヒレンシク
を見たと差をつけられた。ここからは合同でみあんす外竹内を通り坂の
古市駅東側階段で場を合せ、解散。

今回の小学生の子供が数人に両親と参加して下さったが鳥を見つ
け子目の早さには驚かされた、また鳥が餌物を食べた様子も早さ、
大人は誰色ついでに行けました。この日もとんとん参加して頂いて
貰ったのもです。

幹事の皆様にはお疲れ様でした、左左様でついでに行く一同を
代表して深謝致します。

会員 松下 猛

